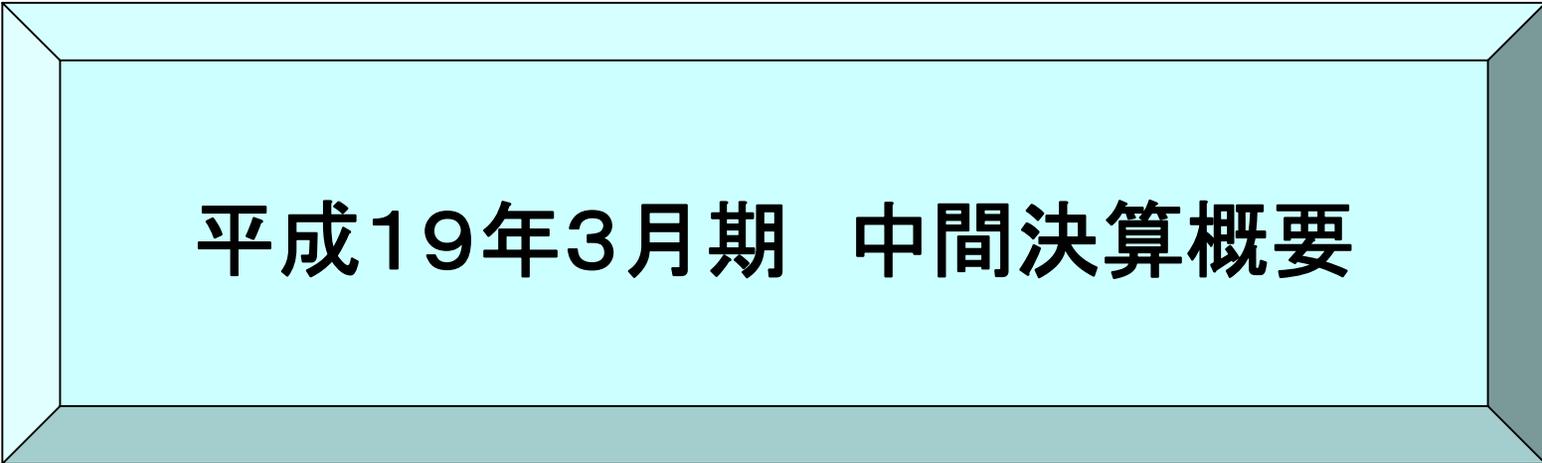


平成19年3月期中間
決算説明資料

平成18年11月29日

 川重冷熱工業株式会社



平成19年3月期 中間決算概要

売上は、機器本体ならびに改修改造・メンテナンス共に増加したことにより前年同期比増となりました。
資材費高騰に伴うコスト増はありましたが、大型の高採算物件の売上計上が当中間期に集中したことにより好転し、加えてその他のコストおよび諸費用の低減に努めました結果、経常利益、中間純利益共に前年同期比を上回る結果となりました。

平成19年3月中間貸借対照表



資 産

金額単位:百万円

	当中間	前中間	前年同期比	備 考
流動資産	10,146	9,347	108.5%	
現金及び預金	19	26	73.1%	
受取手形・売掛金	7,535	6,349	118.7%	休日満期日の手形、売上高増等による。
棚卸資産	2,278	2,719	83.8%	
繰延税金資産	292	257	113.6%	
その他流動資産	20	△ 6	-333.3%	
固定資産	4,311	3,981	108.3%	
有形・無形固定資産	2,172	2,214	98.1%	
長期繰延税金資産	1,273	1,211	105.1%	
投資その他の資産	865	555	155.9%	中国の合併会社への出資の影響。
資産合計	14,458	13,329	108.5%	

平成19年3月中間貸借対照表



負債

金額単位：百万円

	当中間	前中間	前年同期比	備考
流動負債	7,159	6,506	110.0%	
支払手形・買掛金	4,739	4,790	98.9%	
短期借入金	963	533	180.7%	借入増、中国の合併会社への出資等の影響。
前受金	139	226	61.5%	
設備支払手形・未払金	168	167	100.6%	
その他の流動負債	1,149	789	145.6%	未払法人税、未払消費税の増等による。
固定負債	3,117	2,996	104.0%	
退職給付引当金	2,980	2,866	104.0%	
その他固定負債	137	129	106.2%	
負債合計	10,277	9,502	108.2%	

平成19年3月中間貸借対照表



純資産

※純資産の表記は当中間期からとなっております。

金額単位：百万円

	当中間	前中間	前年同期比	備考
株主資本				
資本金	1,460	1,460	100.0%	
資本剰余金	1,228	1,228	100.0%	
資本準備金	1,228	1,228	100.0%	
利益剰余金	1,476	1,125	131.2%	
利益準備金	168	168	100.0%	
その他利益剰余金	1,307	956	136.7%	
別途積立金	800	600	133.3%	
繰越利益剰余金	507	356	142.4%	
自己株式	△ 9	△ 7	128.6%	
株主資本合計	4,155	3,807	109.1%	
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金	25	19	131.6%	
評価・換算差額等合計	25	19	131.6%	
純資産合計	4,180	3,826	109.3%	
負債及び純資産合計	14,458	13,329	108.5%	

平成19年3月中間損益計算書

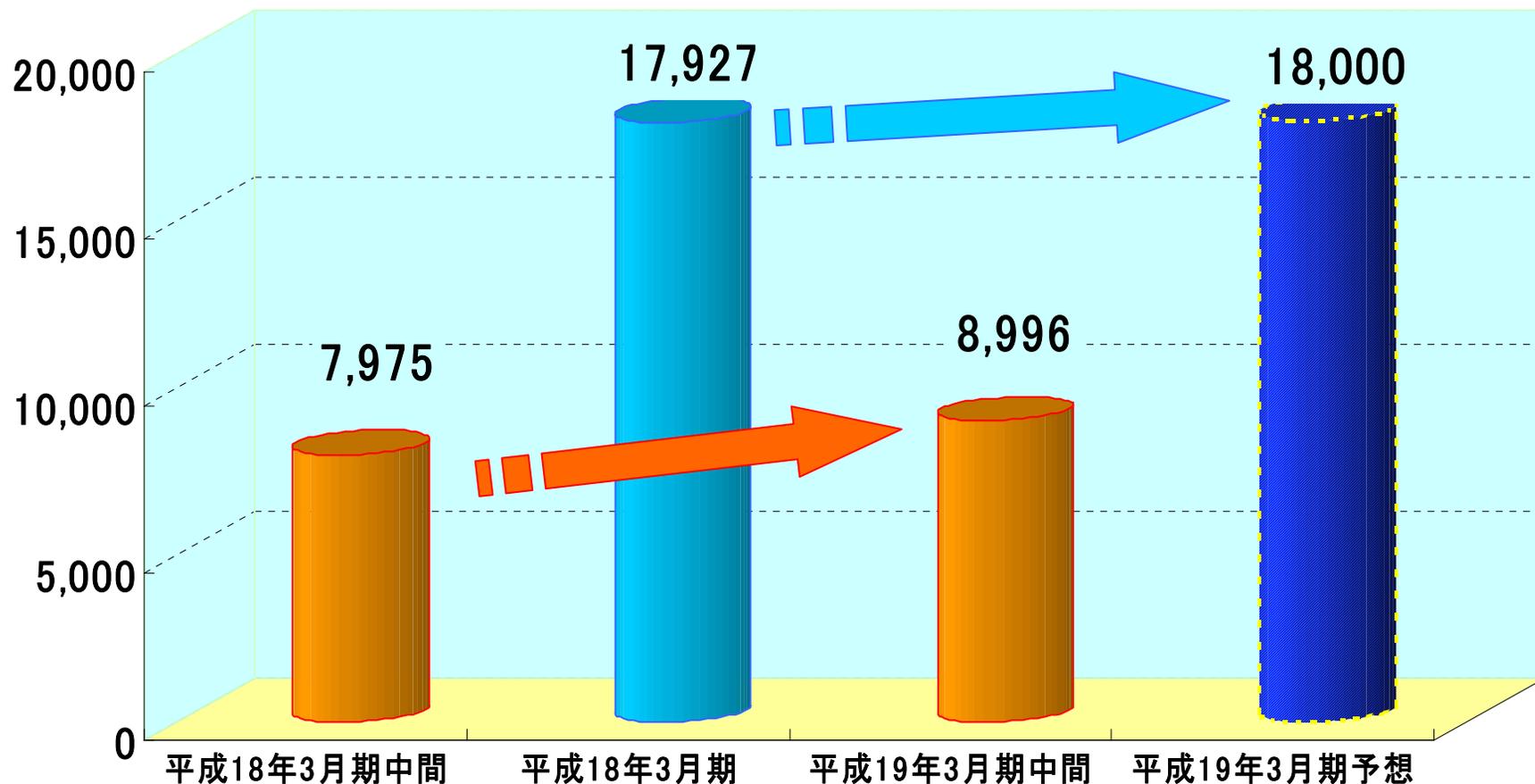


金額単位:百万円

	当中間	前中間	前年同期比	備 考
売 上	8,996	7,975	112.8%	空調事業:シグマエースの増等、ボイラ事業:水管ボイラの増等
売上総利益	2,427	2,078	116.8%	
販売費及び一般管理費	1,932	1,924	100.4%	
営業利益	495	154	321.4%	
営業外収益	16	10	160.0%	
営業外費用	58	38	152.6%	棚卸資産処分損
経常利益	452	126	358.7%	
特別利益	0	0	#DIV/0!	
特別損失	10	0	#DIV/0!	
税引前中間純利益	441	126	350.0%	
法人税、住民税及び事業税	206	85	242.4%	
中間純利益	235	41	573.2%	
前期繰越利益	272	315	86.3%	
中間未処分利益	507	356	142.4%	

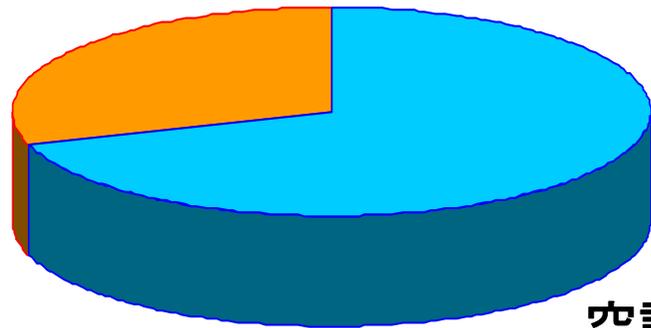
売上の推移

金額単位：百万円



売上構成比の比較

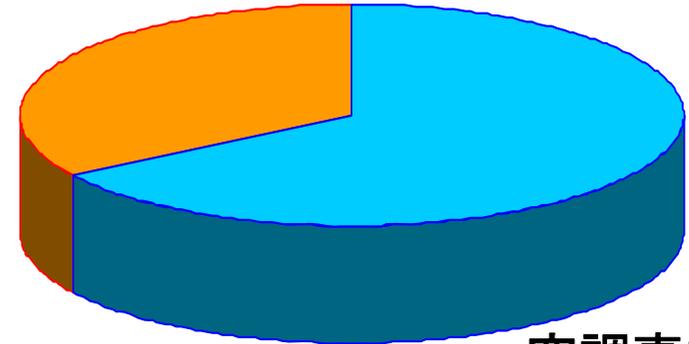
ボイラ事業
30.3%



空調事業
69.7%

平成18年3月期中間

ボイラ事業
34.3%



空調事業
65.7%

平成19年3月期中間

要因分析

空調事業、ボイラ事業の機器、改修改造工事・メンテナンス共に増加しましたが構成比に大きな変動はありませんでした。

空調事業

- ①機器の売上は、大型機の増加に伴い増加いたしました。
- ②改修改造工事・メンテナンスは、一般工事の大幅な増加に伴い増加いたしました。

ボイラ事業

- ①機器の売上は、水管、排熱、大型貫流ボイラの売上が増加いたしました。
- ②改修改造工事・メンテナンスは、一般工事が増加いたしました。

平成19年3月期 業績予想

平成19年3月期の業績予想

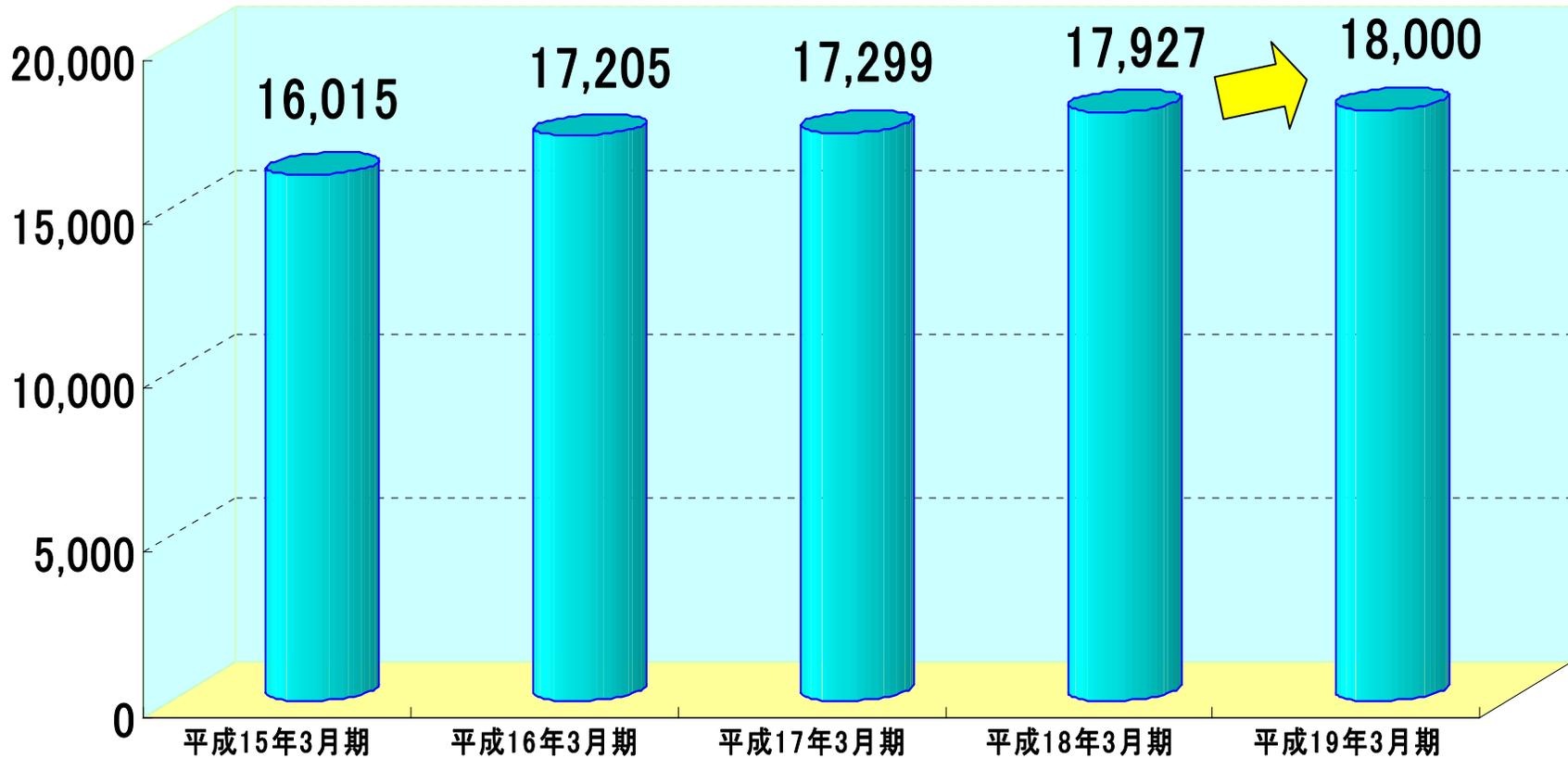


金額単位:百万円

	今期予想	前 期	前 期 比	備 考
売 上	18,000	17,927	100.4%	
空調事業	11,750	11,755	100.0%	
ボイラ事業	6,250	6,171	101.3%	
経常利益	550	542	101.5%	
当期純利益	286	257	111.3%	

売上の推移(予想)

金額単位:百万円

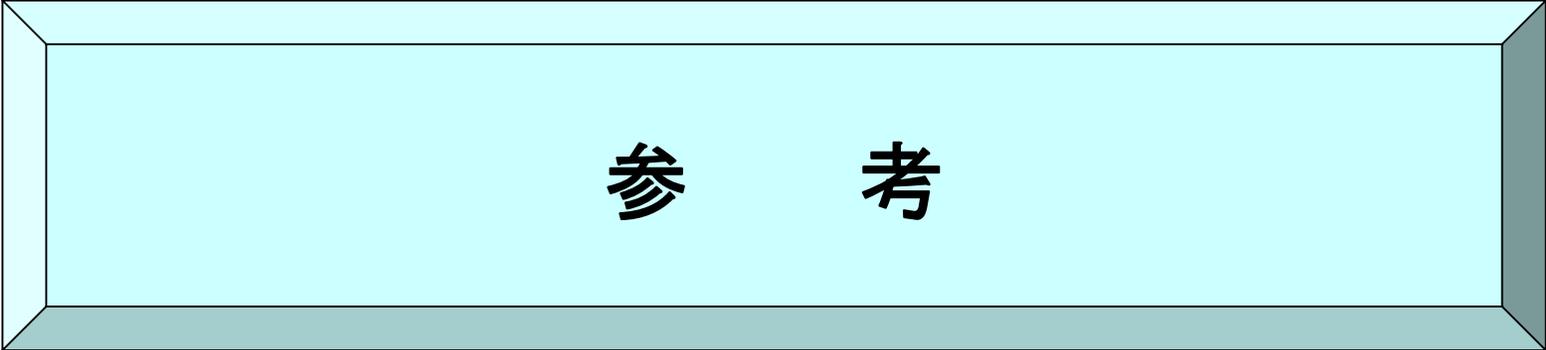


空調事業

- ①吸収冷温水機の大型容量域の「シグマエース」、「三重効用型機」および新規市場投入をした中型容量域の「シグマミディ」を中心にリブレース需要を確保いたします。
- ②電話回線を使ったメンテナンスシステムの「テレメンテ」の普及およびサービスメニューの充実を図り、改修改造工事・メンテナンスの拡大を図ります。

ボイラ事業

- ①大型貫流ボイラ「イフリート」の制御性の特長、省エネルギー性を活かして受注拡大に注力いたします。
- ②機器本体に付帯する周辺設備への対応力を高めて受注の拡大に努めてまいります。



参 考

当社の経営は、「エクセレントカンパニーの構築」をめざし、顧客ニーズにあった商品を業界一級の技術で提供することにより適正利益を確保し、株主には適正な配当を行うとともに、従業員および全事業従事者のために人間性豊かでゆとりのある業務遂行と暮らしを創造し続けながら、社会に貢献することを基本に運営しております。

当社の関連する空調業界では、市場競争の激化により販売価格が低下傾向にあり、業界全体の需要につきましても斬減傾向にあります。リプレース需要を中心に回復してくると予想されます。省エネルギーおよび吸収式の特長を最大限に活かして余剰エネルギーを有効利用する機器の開発は今後も進展していくものと思われれます。また、吸収式は、電気式のターボ冷凍機と違い、地球温暖化係数の高いフロンを一切使わない、ノンフロン空調であることも今後の需要回復の要因となると思われれます。

ボイラ業界は、貫流ボイラを中心とした市場構造には変化がなく、また、特殊仕様の水管ボイラも安定した需要が見込めるものと思われれます。

本資料に関する問合せ先



企画室 経営管理部

TEL 077-563-1111

ご注意

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願いいたします。